

同級生が語る

# 蓮池君はこんな学生だった

80年卒／法・法22組

渡邊正直さん(会社経営)  
月田雄策さん(公務員)

インタビュー構成 学生記者・関敦子

## 「意志の強さ」

「とにかく意志の強い、義理堅い人間だった」と、同じクラス(法律学科22組)だったふたりは口をそろえる。これという特別な出来事があったわけではないが、一緒に過ごしていて、そう感じる場面が多かったという。「だから、彼が両親に黙って姿を消すなんて信じられなかった」と、渡邊さん。「事件」についての直感である。

## 「第二外国語は中国語」

3人のクラスは第二外国語が中国語。厳格な金丸先生と、中国人の水世婦という女性の先生の話は、蓮池さん本人も述懐するように(4ページ)。

ジ)、思い出深い。水先生は、金丸先生とは対照的に、やさしく、テストの点が良くなるでも、成績に「手心」を加えてくれる先生だったそうだ。

「授業では、テスト範囲が増えないように、みんなですまらない質問をたくさんして授業を遅らせたりしましたよ」と月田さん。

蓮池さんほどの授業でも最前列が指定席。テスト前にはよく勉強していて、成績もよかったという。

## 「野球と麻雀」

蓮池さんは中学時代野球部の捕手をやっていた。大学に入ってからも野球好きは変わらず、渡邊さんと一緒に後楽園球場に観戦に行ったり、調布や江戸川でキャッチボールや試



学生時代を語る渡邊正直さん(左)と月田雄策さん。ときに沈痛な表情も浮かんだ

イブじゃない。「よく麻雀は人柄が出ると思います、ここ一番という勝負事に強い男、でしょ」と渡邊さん。

## 「女子大との合コン」

「よくやってみましたねえ」と月田さんが打ち明ける。そのころの中大は「男大生」だったから、女子大との合コンはアコガレだったらしい。「蓮池は、こまめに出ていて、まとめ役でしたよ。一度、わたしと彼が出そ

びれたとき、その後大学で周りの連中が毎日のように合コンの女の子の話ばかりしていて、二人でムツとしていた記憶がありますけどね」

蓮池さんの妻、奥土さんについては、「ぜんぜん知らなかったな」とふたり。友達に話すことはなかったという。「恥ずかしがって、言わなかっただけかもしれないし、私たちが覚えてないだけかもしれませんね」

## 「運の強い男」

蓮池さんが「消息不明」となったのは、78年の7月。渡邊さんは、夏休みの終わりがら母・ハツイさん



77年10月、大学2年次の蓮池薫さん。駿河台校舎で、「好きなロックか何かを聴いているところを、撮った一枚です」(月田さん)

から電話をもらい、初めて知ったという。当時はまさかこのような事件が起きていたとは考えられず、「クラス仲間も、親子ゲンカか、駆け落ちか、くらいに冗談交じりに言っていましたね。そのうち連絡がくるだろうと」。

大韓航空機爆破事件(87年11月)の後になる。金賢姫の自供で明らかになった「李恩恵」をはじめとする「北朝鮮による大がかりな日本人拉致疑惑」を特集した週刊誌の記事が目にとまった。

「私はその記事を見たときに、ピンときて多分これが真実だろうなと思いましたね。その後なにか行動を起こしたということではないのですけれど。それというのは、前に言ったとおり彼は、とても意志が強くて、義理堅い男だから、例えばお父さんやお母さんに対して、ずっと音信不通で、何週間も何カ月もいるような男ではなかったからですよ」

そして「昔から、何か、運の強さも感じるんですよ。生存、と聞いて、その念を一層強くしました」と

渡邊さんは言うのである。

——今回の帰国について、クラス仲間として思うことは？

月田さん「早くやはり、子供さんも含めて、日本に戻ってきてほしい。本人もそうだろうし、彼のご両親でなくともね、そう

思います」

渡邊さん「私も子供の親ですけど、子供たちを残したまま日本へ帰ってきてても、気が気ではないと思います。そんな状況の中では、手放しで喜べないっていうか。とりあえず帰ってきて、バンザイして喜べる状況じゃないですね。彼のご両親だってお孫さんの顔を見たいでしょうし。帰ってきたら蓮池に会ってみて、という気は十分ありますけど、いま、この段階で、周りのわれわれが、「よかつたねー」なんていうことは、できないです。まだ、終わってないのですから」

このインタビュは帰国直前に行われた。その後を報告したい。

蓮池さんとの再会は、思いのほか早く、帰国2日めの16日夜、都内のホテルで実現した。渡邊・月田さんら同級生4人で出向き、酒を飲みながらの、24年ぶりの宴。蓮池さんは終始上機嫌で、北朝鮮製たばこをすすめながら「お前はたばこやらなかったよな」「なんだ、いまは吸うのか」などと、蓮池さんの鮮明な記



法・法1年22組。蓮池さんはいつも最前列。その後ろ2人めが渡邊さん(76年10月=月田さん撮影)

憶に言われたほうが驚くほどだったという。

蓮池夫妻が婚姻届けを出した10月25日には、同級生8人で「ペア・ウオッチ」を贈り届けた。「悪かつたねえ。友達つてありがたい」。翌日、さっそく蓮池さんから渡邊さんにお礼の電話があったという。

渡邊さんは言う。「テレビで見るとふるさとに帰ってからの、表情がやわらかくなった印象ですね。子供と一緒にであれば、彼は永住帰国するはずですよ。勝手な思いこみかもしれないけれど、私の勘、です」